



そうこう

霜降（23日）… 裏庭の柿の葉や実の色が濃くなり始めます …

フェンスに枝を伸ばしたぶどうは、10月中旬に収穫し、一人一粒ずつでしたがおいしくいただくことができました。裏庭の柿は葉っぱから色付きが始まっています。売り物になりそうなきれいでとても甘い柿です。青南幼稚園の豊かな秋の実りに感謝するばかりです。

<霜始降 しもはじめてふる 10月23日~27日>

霜降の初候は「霜始降」です。北国では霜が降りる頃です。朝晩と昼間との気温差が大きくなってきていますので、健康管理にご留意いただきたいと思います。

<園庭のぶどうは先輩からの贈り物>

築山のフェンス際に植わっているぶどうは、フェンスにうまく絡みついて枝を伸ばし、今年もたくさんの実を付けてくれました。このぶどうは、十数年前の保護者の方からいただいた苗を植えたものだそうです。それが生長し、現在の園児たちに秋のおいしい恵みを届けてくれているとは、本当にすてきな話です。幼稚園と保護者との連携が自然の中でも脈々と受け継がれていることをうれしく思います。

<収穫の喜びはみんなで分け合って>

10月中旬、好きな遊びの時間に、年長児が中心になってそのぶどうを収穫しました。園庭で遊んでいる子たちはその様子を見ていました。かごがいっぱいになってくると、収穫隊はあちこちに報告に出向いていきました。これは、毎年いろいろな野菜や果物を育て収穫する経験を繰り返す中で、「収穫物はみんなのもの」という心が受け継がれていることの現れです。自分の喜びを共に暮らす仲間と共有しようとする行動が自然に出てくるのは、先生たちの日々の指導や配慮の成果であり、青南幼稚園のすばらしい伝統です。

<記憶に刻まれる特別な味>

小さい房が付き始めた頃から、「大きくなって色付いてくるまで待っていようね」と、ずっと見守ってきた特別なぶどうです。食べる様子を見に行くと、丁寧に皮を剥いてじっくりと味わっている姿があちこちでありました。きっと記憶の奥に刻まれる味、心のふるさとの味となったことでしょう。



「ぶどうが採れたよ」「わ～おいしそう！」



「見て、こんなにたくさんあったんだよ！」



かごいっぱいぶどうが職員室に届き…



選別すると、一人一粒はありそうです！



まだ残っているぶどうはないかと、一生懸命探す姿もありました。ずっと生長を見続けてきたからこそその微笑ましい姿です。



収穫の翌日、弁当のスペシャルデザートとしていただきました。一人一粒だけだった分、じっくり味わっている姿が印象的でした。



採り残しはないかと、私も収穫隊に